

令和2年度 中央区立阪本小学校 外部評価報告書	
外部評価委員：安西暉之 山田和雄 坂間政利 今野克彦 江本良雄 塚越さとみ 本橋慶子 田村俊夫 (敬称略)	
報告書作成者：峯川一義	
評価時期 令和3年2月	
<p>1 重点目標の評価</p> <p>重点目標1「自ら考え共に学ぶ子どもの育成」</p> <p>コロナ禍にあって、教育活動が当初の計画通り進まない中、校長先生のリーダーシップの下に、教職員が現状で最大限の努力をされて乗り越えている様子がうかがえる。特に、「楽しく学校での学習を行っているか」の質問に、保護者の97%が肯定的な評価を行っており、児童は「授業の内容がよくわかるか」の質問に96%が肯定的である。「教職員の自己評価を裏付けるものになっている。また、「学校に行くのが楽しいか」の質問に児童の10%が否定的な回答をしている。こうした児童をなくすよう、教職員一人一人が「楽しい授業」「分かる授業」づくりの実践や、児童の悩みに親身になって向き合うよう一層の努力を期待したい。</p> <p>「課題解決型学習」の実施は、学校図書館等の活用や情報手段などを指導に生かすことによりその効果が期待できる。「課題解決型学習」は、今般の学習指導要領における授業改善の取組の一つであり、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させることを基本にしながらも、児童の興味・関心を生かした学習活動を展開するということを再確認して、取り組んでほしい。</p> <p>重点目標2「温かい人間関係を育む教育の充実」</p> <p>教職員は「十分達成」「達成」が100%、保護者80%以上、児童は90%以上の結果を得た。特保護者は重点目標2の4項目全てに対し一様に約90%が肯定的に回答しており、学校の教育活動に対して信頼を寄せていることがうかがえる。保護者の自由記述の中にも、「温かく見守り…」「親身になってご指導…」「手厚いご配慮…」「子供たちのもめごとにしっかり対応…」など、感謝の言葉が数多く記述されており、コロナ禍にあって充実した教育活動が行われていたと考えられる。</p> <p>重点目標3「地域の特性を生かした特色ある教育活動の推進」</p> <p>教職員は、伝統文化理解教育（邦楽等）の取組状況を高く評価している。一方、保護者は金融教育（コレド阪本）や法教育の取組に90%を超える高い評価をしている。今年度は、保護者が教育活動を参観する機会が激減した影響もあり、邦楽の演奏を参観する機会が少なかったと思われるが、一方、兜町を地元にもつ阪本小学校ならではの教育活動に保護者の期待は大きいであろう。学校は、こうした保護者の期待に応え、地域に密着した特色ある教育活動をさらに充実させていくことを期待する。</p> <p>2 今後の改善に向けた意見</p> <p>○保護者アンケートの回収率が学校の努力により昨年度より増加したとはいえ、回収率70%は十分な数字とはいえない。「全体の評価」の設問12や設問15の回答などを踏まえ、機会を見つけ、この原因を多くの保護者から聞き取ることも必要であろう。</p> <p>○保護者向けアンケートの設問10及び設問11、児童向けアンケートの設問4は、学校の公教育としての重要な役割を問うている。多くの保護者が、学校を信頼し不安や悩みの相談に応じてくれるという認識をもっている。一方、児童の約30%は、教師は悩みなどを相談しやすいと思っていない。児童の相談相手は学級担任と限らず、広く「学校の大人」という枠組みで相談体制を整えるのも一つの方法であろう。</p> <p>○平成30年度、令和元年度の2か年にわたる研究指定は、本校にとって大きな成果があったものとする。今年度その成果を生かし、ICT機器を活用した授業実践等は自校の教育実践の充実に寄与している。今後とも、研鑽を積み区内のパイロット校としての躍進を期待する。</p> <p>3 その他</p> <p>教職員に対するアンケートに、否定的な回答がほとんどなかった。教職員が、校長先生の経営方針を深く理解し、協働して教育活動に取り組んでいるものと推察する。</p>	